

墨田区基本計画 “夢” 実現プロジェクト（骨子案）

○ すみだの夢とは

「暮らす人、働く人、訪れる人の夢や希望がかなえられている状態」を“すみだをめざすべき姿”＝“すみだの夢”とする。

○ 「夢」実現プロジェクトとは

“すみだの夢”を実現するためには、基本計画の施策体系という縦軸に、「まちづくり」と「ひとづくり」を横軸として掛け合わせ、さらに、まちの魅力を発信する「シティプロモーション」を広く展開することにより、基本計画全体を押し上げていく仕組みが重要となる。

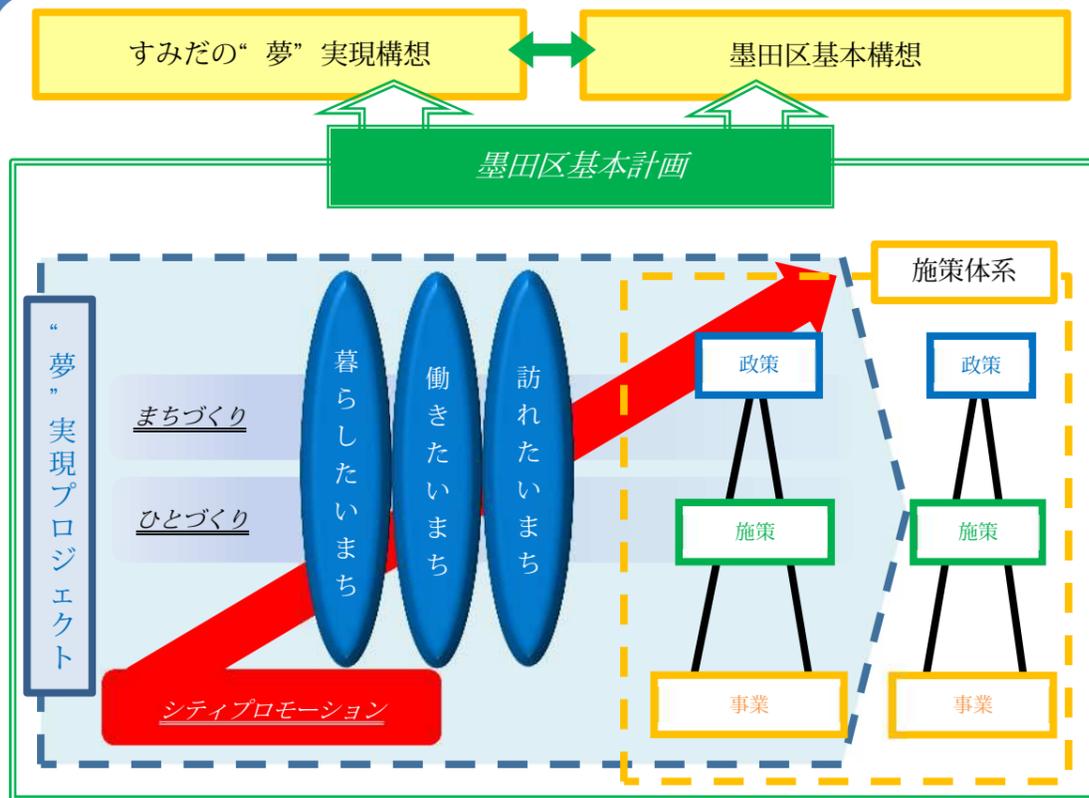
この横軸を形づくるものとして具現化した3つのプロジェクト（「暮らしたいまちの実現」「働きたいまちの実現」「訪れたいまちの実現」）と、それらプロジェクトの推進のために展開する「シティプロモーション戦略」を「夢」実現プロジェクトとする。

○ “夢”の実現に向けて

“すみだの夢”を、区民や事業者、地域で活動するさまざまな団体などと行政が広く分かちあい、力を結集し、それぞれの役割を果たしていくことにより、プロジェクト事業を推進する。

○ プロジェクト期間

新基本計画の前期5年（平成28～32年度）とする。



プロジェクト1 「暮らしたいまち」の実現

子育て支援を充実させ、
笑顔があふれるまちをつくります！

地域力日本一の、
住んでいて良かったまちをつくります！

将来像

- 自分が描いたライフスタイルに沿った子育て環境が整い、子どもを育てやすく、元気な子どもの声が弾む活気あふれるまちになっている。
- 教育環境の充実により、子どもたちが自分の意思で自分の夢を選べるようになっている。
- 子育て世帯を中心として、すみだの人口が安定的に増加している。

将来像

- 燃えない・壊れないまちづくりが達成されている。また、区民一人ひとりが共助の意識にあふれ、防災対応力が高まっている。
- 多様なコミュニティが連携し、地域で活発に活動している。
- 誰もが生きがいをもっていきいきと暮らしている。

背景

- 全国で少子化が進む中、持続可能な活気あふれるまちづくりを進めるため、安心して子どもを産み育てられる環境と、子育て世代の定住促進を図ることが求められる。
- すみだで育つ子どもたちの知・徳・体が充実することで、夢と希望を育み、自らの力で夢を切り開いていくようになるための、教育力向上が求められる。

背景

- 首都直下地震や近年多発するさまざまな都市型災害への対策の着実な推進が求められる。
- すみだらしさを下支えしてきた地域コミュニティは、多様化する社会の中でますますその重要性が増している。
- 高齢者や障害者等、社会的弱者に対する課題が多様化・複雑化する中でも、誰もが自分らしく暮らせる地域づくりが求められる。

推進していくプロジェクト

- 子育て支援が徹底整備されたまちづくり
- 知・徳・体の充実を図る教育による次代を担うひとづくり
- 緑豊かな公園など、子育てしやすい住環境づくり

推進していくプロジェクト

- 災害に強い安全安心なまちづくり
- 誰もが安心して暮らし続けられるまちづくり
- 地域力を高めるコミュニティとひとづくり
- 高齢者の地域包括ケアが進むまちづくり

シティプロモーション戦略

すみだへの愛着・誇りを活かしたシティプロモーションで、
人が集まり賑わいあるまちをつくります！

プロジェクト2 「働きたいまち」の実現

活躍したい人が、輝くチャンスをつかめるまちをつくります！

将来像

- すみだの産業に関わる人たちが生きがいを感じながら働いており、これからもこのまちで働き続けたいと思う環境が整っている。
- 新たに生まれたビジネスと、既存事業者の交流が生まれる環境があり、産業が活性化している。
- すみだに集積する事業所に魅力を感じ、すみだで仕事がしたいと考える人が増えている。
- 女性や若者、高齢者等が、自分の希望するワークスタイルで、いきいきと働いている。

背景

- すみだの産業が厳しい経営環境に置かれる中であっても、これからも「ものづくりのまち」として産業が活性化し続けるために、技術・技能の継承はもちろんのこと、新たな展開が求められる。
- 技術の高度化に向けた企業努力や積極経営を行う事業者や、地域のポテンシャルに可能性を感じ区内で開業する事業者もおり、この流れを一層推進していくことが求められる。
- 仕事と子育てを両立させて、社会で活躍したいと考える女性が増えてきており、そのような希望をかなえる環境を整備することが求められる。
- 人口減少社会の到来により労働力の減少が予想される中、次代を担う若者の就業意欲の醸成や労働環境の整備、また、経験豊かな高齢者が労働の場で活躍できる環境整備が求められる。

推進していくプロジェクト

- すみだの産業に関わる人が、生きがいをもって働き続けられるまちづくり
- 新たなビジネスが生まれ、さまざまな交流が活発に行われるまちづくり
- ワークライフバランスを実現し、女性も男性も輝き、活躍できるまちづくり
- 夢をかなえたい若者や元気な高齢者が活躍できるまちづくり
- イクボスの理念が区内に広まるまちづくり

プロジェクト3 「訪れたいまち」の実現

さまざまな交流が生まれる、憧れのまちをつくります！

将来像

- 区民等によるおもてなしをはじめ、すみだならではの歴史や文化、景観等が織りなす「まちの魅力」で、世界中の多くの人にとって「一度は来たいまち」となり、一度すみだに訪れた人が「また来たい」と思う、国際文化観光都市になっている。
- すみだの至るところで、まち歩き観光を楽しむ人があふれている。
- 産業と観光が融合することで、事業者がさまざまな取組を行い、来街者と区民、区内事業者間の交流が活発になっている。

背景

- 東京スカイツリーが開業して以来、国内外から多くの観光客がすみだを訪れている。また、東京オリンピック・パラリンピック大会の開催を控えており、墨田区には、一層多くの来訪者が予想され、外国語対応をはじめ、おもてなしを推進する取組の充実が求められる。
- すみだへの注目が高まる中、さらにインバウンド（訪日外国人観光）を推進するため、すみだの伝統のものづくりの魅力を観光と結びつける、より積極的な取組が求められる。
- 平成28年度に開館する「すみだ北斎美術館」をはじめ、たばこと塩の博物館や郵政博物館、刀剣博物館等、博物館・美術館の集積が進んでいることから、それら施設を中心とした、文化薫る、すみだの魅力をつなぐしくみづくりが求められる。

推進していくプロジェクト

- 誰もが安心してまち歩きを楽しめる国際的なまちづくり
- 観光とものづくりが融合したまちづくり
- 「美術館・博物館プロムナード」構築による歴史・文化薫るまちづくり
- 東京オリンピック・パラリンピック大会に向けて、「おもてなしの心」を育むひとづくり

シティプロモーション戦略

将来像

- 区民をはじめ、すみだに関わる人の「まちへの愛着」が育まれているとともに、このまちで暮らし、活動することがその人たちの誇りとなっている。
- すみだを愛する一人ひとりが自然とシティプロモーションの担い手となっているとともに、国内外に対して区民等と行政の協働による情報発信が行われることで、「すみだの魅力」について広く共感が生まれている。
- シティプロモーションが展開されることで、暮らしたい、働きたい、訪れたいまちが実現し、すみだに人が集まり賑わいのあるまちとなっている。

推進していくプロジェクト

- まちへの愛着、誇りを醸成するまちづくり
- すみだへの愛にあふれ、自らシティプロモーションを担うひとづくり
- 国内外にすみだの魅力が広がる、区民等と行政の協働による戦略的な情報発信